多自然川づくり取り組み事例

タ　イ　ト　ル　：	多摩川における魚類の遡上調査等について		
水系／河川名：	多摩川水系多摩川	河川分類　：	大河川
河川の流域面積：	1240km2　　整備計画流量： 4500m3/s	セグメント：	1
事　　業　　：	環境整備	事業開始年度	平成4年度
目　標　設　定　：	定性的	段　　階　　：	D（実施・施工時）
課題・目的（主な）：	その他		
工法（主な）：	魚道、落差工、帯工等の整備		
配慮事項（主な）：			

背景・課題、目標設定

＜背景＞
多摩川、秋川では、平成4年3月に全国に先駆けて「魚ののぼりやすい川づくり推進モデル事業」のモデル河川に指定。
「魚ののぼりやすい川づくり」を進めるにあたり、評価対象となる重点対象魚種を選定しました。
アユ、マルタ、ニホンウナギ、ボラ、サクラマス、ヤマメ、ギンブナ、ヌマチチブの8種とした。
＜課題＞
多摩川には東京湾から小河内ダムまでの89kmの間に、堰などの横断工作物が19箇所設置されているが、そのうち平成5年時には13箇所で魚類の上下流の行き来が困難でした。
＜目標＞
横断工作物の改良、魚道の新設や改善などの実施。

取り組み内容・対策例

魚道の新設

（左岸側 ハーフコーン式）

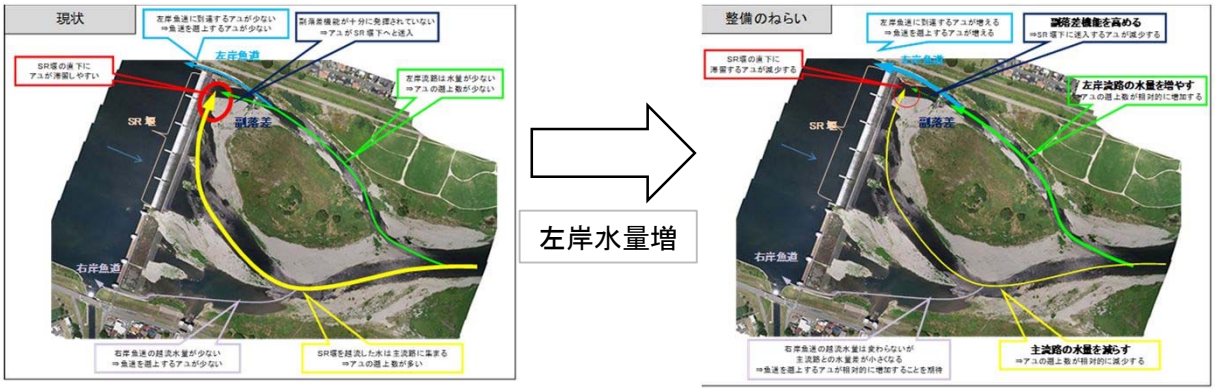
（右岸側アイスハーバー式、舟通しデニー

そこで横断工作物の改良、魚道の新設や改善などを計画的に実施し、平成24年時点では多摩川上流の小河内ダム下流までアユ等が行き来可能な河川となりました。

ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ結果、ｱﾋﾟｰﾙﾎﾟｲﾝﾄ、今後の対応方針

・多摩川では「魚ののぼりやすい川づくり」を計画的に推進してきた結果、直轄管理区間全川で天然アユが遡上する河川に蘇りました。また、魚道管理連絡会を設置することで、関係機関と連携し水系全体の魚道を継続的に維持する体制を確立しています。
・これまでの取り組みにより、多摩川ではアユ等が遡上、生息、産卵し生活史を完結することができる河川になりました。今後は、アユ遡上のボトルネックとなる施設や滞留課題を把握し、解消していくことが課題です。

備考



問い合わせ先	関東地方整備局　京浜河川事務所　河川環境課
電話番号	045－503－4011